

中心市街地における 音楽イベントに関する研究

石橋 義人¹・岸井 隆幸²・大沢 昌玄³・三友 奈々⁴

¹学生非会員 日本大学大学院 理工学研究科土木工学専攻 (〒101-8308 東京都千代田区神田駿河台1-8-14)

E-mail:spacetener.623@gmail.com

²フェロー会員 日本大学教授 理工学部土木工学科 (〒101-8308 東京都千代田区神田駿河台1-8-14)

E-mail:kishii@civil.cst.nihon-u.ac.jp

³正会員 日本大学准教授 理工学部土木工学科 (〒101-8308 東京都千代田区神田駿河台1-8-14)

E-mail:moosawa@civil.cst.nihon-u.ac.jp

⁴正会員 日本大学助教 理工学部土木工学科 (〒101-8308 東京都千代田区神田駿河台1-8-14)

E-mail:mitomo@civil.cst.nihon-u.ac.jp

平成10年に「まちづくり三法」の一つとして、市街地の整備や商業等の活性化を図る「中心市街地活性化法」が制定されたが、必ずしも期待された効果を得ることができず、同法は平成18年に改正、現在は全国で住民と連携した活性化に向かうまちづくりが行われている。この中心市街地活性化事業の中には、地域住民と一体となった音楽イベントを行うことでコミュニティ拡大や経済活力の向上を目指しているものがある。そこで本研究では、中心市街地における音楽イベントの地域活性化効果について検討するものとし、まず国内の音楽市場の動向を把握し、ついで中心市街地での音楽イベントに積極的に取り組んでいる都市の抽出、そしてその取り組み内容の分析を行った。

Key Words : *city center, revitalization, music event, live entertainment*

1. 背景と目的

近年、日本国内ではスポーツ、映画祭、B級グルメ等のイベントやフェスティバルが多数開催されている。基本的にイベントやフェスティバルは運営主体の利益を目的として実施されているが、副次的効果として地域文化の発展、交流拠点の創出や地域活性化などが期待される。

一般社団法人日本イベント産業振興協会¹⁾の調査によれば、国内で1年間に開催されているイベント件数23,557件の中で「音楽・映画・ダンス・演劇」が4,448件と一番多い。また、一般社団法人コンサートプロモーターズ協会²⁾(ACPC)の2013年ライブ市場調査によれば、2013年の国内音楽ライブ市場は2,318億円であり、2012年の1,701億円と比べ、約36.3%の増加が見られる。

したがって今後も、音楽と関連したイベントやフェスティバルを行うことで、地域の賑わい・交流そして経済効果の向上を目指す取り組みが全国各地で展開されるのではないかと推察される。

以上のことから本研究では、中心市街地で開催される

音楽イベントに着目することとし、まず国内の音楽市場の概況と動向を把握するとともに、中心市街地活性化のために音楽イベントに積極的に取り組んでいる都市の抽出を行い、その具体的な取り組み内容を明らかにする。

2. 既存研究

関連した既存研究として、北海道で開催されるRising Sun Rock Festivalを事例に参加者を観光客化させるための施策提案を目的とした研究³⁾があるが、中心市街地における地域限定で行われている音楽イベントの事業効果等の分析をしている研究がなかった。本研究では、国内の音楽市場動向を分析し、ついで中心市街地での音楽イベントに積極的に取り組んでいる都市の抽出、そしてその取り組み内容の分析を目的とする。

3. 方法

都市機能の増進や経済活力の向上、にぎわい創出とい

う観点から内閣府による認定された中心市街地活性化基本計画(以下、基本計画)をもとに、音楽イベントを行っている都市を抽出し、実施状況を整理する。さらにぴあ総研ライブ・エンタテインメント白書2009⁹⁾を用いて、音楽市場規模の実態を把握する。

4. 市場規模

現在の国内音楽市場をa)音楽ソフト市場、b)音楽ライブ市場に分類し、音楽市場の変動を分析、そして音楽の市場規模が数ある市場の中でどのような位置付けとしてみえるのか見ていく。

(1) 音楽市場

ここでは、音楽ソフト市場そして音楽ライブ市場の実態を一般社団法人日本レコード協会⁹⁾の音楽ソフト種類別販売実績や一般社団法人コンサートプロモーターズ協会(ACPC)のデータを基に、音楽市場の変化について見ていく。

a) 音楽ソフト市場

まず、音楽ソフトの種類別販売実績(図-1)をCDアルバム、CDシングル、インターネットによる有料音楽配信、その他で分類し、それぞれの売上推計を見ていく。

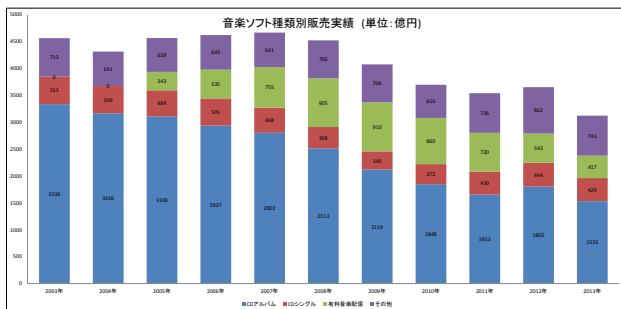


図-1 音楽ソフト種類別販売実績 2003～2013年

ソフト売上は2007年にピークを迎え、2012年に入ると急激なスマホの普及により、配信されている音楽を“聴く”ことよりも動画サイトでプロモーションビデオ等を“観る”という行為にシフトされ、音楽配信を減少に追い込む形になったと考える。

b) 音楽ライブ市場

次に、一般社団法人コンサートプロモーターズ協会(ACPC)のデータ集計を基に、日本全国で行われているライブがどれほどの市場規模を有しているのか実態を把握する。(図-2)

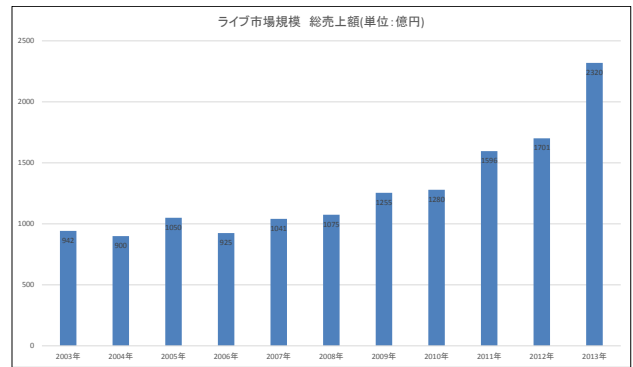


図-2 ライブ市場規模 総売上額(単位: 億円)

2003年からライブ市場の動向を見ていくと、僅かに減少が見られるが、2007年を境に増加傾向にあることが分かる。2012年から2013年には約36.3%と飛躍的な増加が得られており、近年のアイドルシーンや大型フェスの開催をきっかけに来場する人々が増えていること、また、前述した“聴く”行為よりも“観る”行為にシフトされていることが大きな要因と考えられ、大小問わずライブに来場すれば、好きなアーティストを間近で観ることができる、ライブ関連のグッズを購入できる、さらにはライブに行くことによって自身の思い出作りにもつながるといった面で効果が表れている。市場規模の動向から今後、中心市街地等での音楽イベントの実施が賑わいの創出、経済活力の向上を図れる可能性があると考えられる。

(3) 音楽市場規模の位置付け

ソフト市場の減少、それに対し、ライブ市場の増加、2つの市場規模動向を分析し、ライブ・エンタテインメント市場の中では音楽市場はどの位置付けにあるのか、音楽、ステージ、映画、スポーツ、遊園地・テーマパークの5種類で見ていく。なお、音楽市場規模は、ソフト市場また、ライブ市場を合算したものになる。

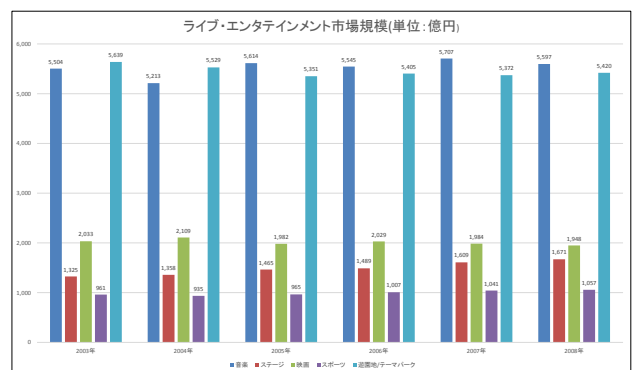


図-4 ライブ・エンタテインメント市場規模 2003～2008年

図-4を見ていくと、5種類の中で音楽市場と遊園地・テーマパークが5000億超の市場規模を有しており、この

2つがほぼ拮抗している市場であることが見て取れる。この2つの市場において、チケット売上だけでなく、現地で販売されているグッズ・飲食等の売上が起因しているためだと推測できる。音楽市場がライブ・エンタテインメント市場の中で圧倒的な市場であることやライブ市場の動向を見ていくと、ライブハウスや路上等、生演奏を行うことで人々の集客機能・経済効果の発展につながると考えられる。

5. 中心市街地活性化基本計画における音楽イベントの実態

中心市街地活性化基本計画より、2014年3月時点において（119市155計画）「中小小売商業高度化事業、特定商業施設等整備事業その他の商業の活性化のための事業及び措置に関する事項」の項目でストリートライブ、ジャズ、クラシック等のジャンルの“音楽イベント”を活性化事業として行っている都市を抽出し、イベント実態を整理する。さらに、活性化目標として、「音楽によるまちづくり」をうたっている都市を把握し、その経緯や音楽事業の内容について明らかにする。

(1) イベント実施状況

全国の中心市街地活性化基本計画を分析した結果、音楽イベントを実施している都市は19都市であった。具体的には、ジャズ・ロック・クラシック等のジャンルで行われ、旭川市では、学生が中心となったマーチングバンドが結成され、1929年に第1回が開催されてから現在にまで続いている。石巻市・倉敷市は、地域の特性を生かしたイベントや伝統音楽を奏でるイベントとして開催されている。柏市・高崎市・沖縄市ではストリートミュージシャン活動活性化やミュージシャンを輩出したことにより「音楽のまち」としてイメージが定着し、ライブハウス等の施設が増設されている。また、地域で実施されているイベントの多くは、市民参加型であり、学生や社会人が一体となることで、市内でのコミュニティ拡大や地域の特性など音楽を通じてPRしている。（表-1）

表-1 抽出された19市のイベント実施状況^①

小樽市	おたる浅草橋オールディーズナイト	北陸	
旭川市	北海道音楽大行進	金沢市	まちなかミュージックストリート開催事業
東北		近畿	
盛岡市	いしがきミュージックフェスティバル	大津市	大津ジャズフェスティバル
石巻市	トリコロール音楽祭	高槻市	音楽イベント「高槻ジャズストリート」を核としたブランド発信事業
秋田市	Akita Music Festival	宝塚市	宝塚音楽回廊
関東甲信越		伊丹市	伊丹オトラフ
土浦市	サウンド蔵ムーンライトコンサート	和歌山市	ぶらくりスイング
高崎市	高崎音楽祭 ミュージック高崎ジャパン 高崎マーチングフェスティバル 群馬交響楽団定期演奏会	中国	
千葉市	ベイサイドジャズ千葉	倉敷市	倉敷音楽祭
柏市	柏駅周辺活性化イベント事業	沖縄市	ピースフルラブ・ロックフェスティバル プロムナードコンサート事業
飯田市	オーケストラと友に音楽祭		
塩尻市	塩尻市民音楽祭		

(2) 高崎市・沖縄市の音楽による街づくり

基本計画で抽出された19都市において、掲げている活性化目標の中に「音楽によるまちづくり」に関連した項目があるものは高崎市と沖縄市の2市であった。高崎市では目標3、沖縄市では目標1に該当する。（表-2）

この2市が音楽事業を始めた経緯として、高崎市は、戦後、1945年に高崎市民オーケストラ（現在：群馬交響楽団）が創設され、活躍をきっかけに1961年、音楽に関する活動の活発化を受け、群馬音楽センターが完成し、他にも群馬シンフォニーホールやライブハウス・クラブなどが立地している。1980・90年代に一世風靡したBOOWY、BUCK-TICKを輩出したことで音楽に関するイベントが盛んであり、「音楽のある街」として認知されている。

沖縄市は、戦前からエイサーをはじめ、獅子舞、民謡といった伝統芸能があり、戦後過酷な状況から潜り抜け、地域の文化や民衆の娯楽として復興を遂げた。また、アメリカ文化というものに影響を受けたことでロックやジャズなどの多彩なジャンルの音楽や芸能が醸成された。平成19年には、コザ・ミュージックタウン^②が誕生し、「音楽のまち沖縄市」として県内外へと発信している。

表-2 音楽によるまちづくりを推進する2市

高崎市	目標1 高崎都市圏の地域活性化を牽引する、経済活力に満ちたまち
	目標2 市民の出会いと交流の舞台となる、賑わいのあふれるまち
	目標3 音楽を中心とした“高崎文化”を創造・発信するまち
沖縄市	目標1 コザ文化を基軸としたまちなか交流の促進による賑わいの創出
	目標2 中心市街地全体としての付加価値の向上による生活環境の改善

(3) 高崎市・沖縄市の事業内容とその評価

認定された基本計画では、計画の事業における進捗状況・目標達成の見通し等をフォローアップ（自己評価）として、報告する決まりがあり、ここでは、2市共にa)中間フォローアップを参考に、2市の事業効果を見ていく。（表-3）

表-3 目標に達成に寄与する事業・事業効果

活性化目標	目標達成に寄与する事業	目標指標	基準値	目標値	最新値
高崎市 目標3 音楽を中心とした“高崎文化”を創造・発信するまち	①ミュージック高崎ジャパン	各種文化施設の利用者数の合計値	863,800人 (H19)	704,300人 (H23)	753,157人 (H23)
	②高崎市中央図書館建設事業（高松野地区）				
	③群馬交響楽団定期演奏会				
沖縄市 目標1 コザ文化を基軸としたまちなか交流の促進による賑わいの創出	①胡屋地区リノベーション事業	歩行者通行量（体日）	5,964人/日 (H21)	6,302人/日 (H26)	8,974人/日 (H24)
	②プロムナードコンサート事業				
	③胡屋地区商店街商業環境整備事業				
	④山里第一地区市街地再開発事業				
	⑤コザ再生事業				

高崎市では、事業①のミュージック高崎ジャパンは、平成20年度より「高崎音楽祭」や「高崎マーチングフェスティバル」と並ぶ一大イベントとして実施されている

ものであり、中間フォローアップでは新規イベントによる事業効果を示している。事業②の高崎市中央図書館建設事業は、新図書館の建設に伴って、各文化施設の入館者数を増加させる相乗効果を狙った事業である。なお、平成19年に実施した「高崎市中心市街地の活性化に関するアンケート調査」で、「文化・芸術をネットワークした街」及び「群馬交響楽団を核とした音楽の街」を選んだ割合が約10%であった。そのことから、文化に高い興味を示す層であると想定し、このうちの半数5%が文化施設を利用すると考え、表-4における③の活性化目標に組み込まれている。

沖縄市に関しては、②のプロムナードコンサート事業では毎年15回程度、学生たちの吹奏楽演奏を行うまちなかコンサートを開催するとともに、プレミアム付き商品券の販売や割引クーポン付チラシの配布により、個店及び商店街全体の魅力を高め、売上向上に資する取り組みを行う。他の事業では、商店街の空き店舗改修を行い、コミュニティ施設や新規事業者に向けたチャレンジショップを設置・運営することで活性化を図っている。

高崎市では、各種文化施設の利用者増加、沖縄市では、休日歩行者通行量増加を図るため、以上の事業を執り行い、事業の効果としては、2市共に、増加していることが分かる。

なお、両市では、それぞれBOOWYやORANGERANGEといった有名ミュージシャンを輩出しており、そのミュージシャンの高い認知度が起因してバンドを組む学生や社会人等が増加したといわれており、こうした若者が様々なイベントにも参加している事で事業効果が得られていると推察される。今後とも、バンドを組む学生や社会人等を巻き込んだ市民参加型の生演奏イベントを増加させることで更なる音楽コミュニティの拡大、経済的効果が期待できるのではないかとと思われる。

6. 考察・まとめ

我が国の音楽市場では、ソフトのような音源や有料音楽配信を直接購入することが減少する一方、ライブ市場は増加の傾向にある。この傾向は、大小問わず、ライブに参加し、グッズを購入することなどで、その人自身の思い出作りとなっていくことが要因となっているのでは

ないかと推察される。また、ライブ・エンタテインメント市場において音楽市場がどの位置付けにあるのか実態を明らかにした結果、生音楽ライブは、人々の集客や地域経済の発展に寄与する可能性があることを確認した。

さらに全国の中心市街地活性化基本計画を分析して、中心市街地活性化を目指した音楽イベントの実施状況を把握、加えて中心市街地活性化目標において「音楽によるまちづくり」に関連した項目がある都市として、高崎市と沖縄市を抽出することができた。

また、両市では、これまで数多くの大物ミュージシャンを輩出しており、今後とも「音楽の街」として発展させるべく、様々な活性化事業に音楽を数多く取り込んでいることが明らかとなった。

7. 今後の課題

今後の課題としては、選定された両市における中心市街地の音楽イベントがどれ程の集客機能・経済効果をもたらしたか、実態を調査し、大きな効果が得られていた場合には他都市に参考となる施策をより詳細に考察する、またもし期待される効果が得られていなかった場合には、その要因を究明し、解決策を提案することを行う予定である。

参考文献

- 1) 一般社団法人日本イベント産業振興協会：「国内イベント市場の動向と今後」
- 2) 一般社団法人コンサートプロモーターズ協会：「ライブ市場調査データ」
- 3) 牛木大介、斎藤優太、鈴木聡士：「産業関連分析による野外フェスティバルの地域活性化効果分析」土木学会北海道支部 平成 24 年度論文報告集 第 69 号
- 4) ぴあ総合研究所：ぴあ総研ライブ・エンタテインメント白書 2009
- 5) 一般社団法人日本レコード協会：音楽ソフト種類別販売実績
- 6) 内閣府：19市における各中心市街地活性化基本計画
- 7) コザ・ミュージックタウン：<http://www.kozamusictown.com/>

(2014. 8. 1 受付)